

学校教育目標	心 ひびかせ 川北っ子				
	○自ら問題を発見し、主体的に課題を解決する力を育てます。【知】 ○自分を大切に、人を認め、思いやることができる力を育てます。【徳】 ○自ら進んで運動を継続的に行い、心身共に健康でたくましく生きる力を育てます。【体】 ○家庭や地域における自分の役割と責任を自覚し、行動する力を育てます。【公】 ○多様性を尊重し、新たな価値を創造しようとする力を育てます。【開】				
学校概要	創立 52 周年	学校長 森山豊実	副校長 海邊浩明	2 学期制	一般学級: 21 個別支援学級: 3
	児童生徒数:	人	主な関係校: 名瀬小学校・名瀬中学校		

教育課程全体で育成を目指す資質・能力	名瀬中ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
〈主体的にかかわる力〉 〈協働する力〉 〈地域に貢献する力〉	名瀬中学校 名瀬小学校 川上北小学校	互いに認め合い、主体的に地域・ひと・もの・こととの関わり、協働する力やコミュニケーション能力を高めようとする子ども ○ブログで合同授業研究会や各種研修会を開催し、育てたい子どもの姿や各学校の取組を共有して教育活動に生かす。 ○互いに認め合い高め合う対話的な学びを入れた授業づくりを通して、身近な人、もの、ことに関わり合いながら問題解決的、協働的に学ぶ学習過程を大切に授業改善に努める。

中期取組目標	○チーム川北として、子ども自身が成長を実感できるよう支えながら、大人も共に成長できる学校づくりを目指します。 ・一人ひとりが安心して豊かな学校生活を送れるよう「自己肯定感」や「多様性を認める態度」を大切に豊かな心の育成に努めます。 ・共に学ぶ楽しさを実感したり、自分の思いを表現する力を身に付けたりすることができるよう、子どもの学びの質の向上に努めます。 ・健康でけがを予防するための体力を向上させるため、継続的に運動できるようにします。 ・まちの「人」とのつながりを意識し、まちを愛する心を育てます。
--------	---

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知	①全学級で「学習スタンダード」を意識した授業展開を図る。本年度より、4年生から教科担任制を行う。これによって、多くの目で児童を見守り指導し、指導の場や指導方法の工夫改善を進める。②生活科、「横浜の時間」を中心に、地域と繋がりながら、主体的、協働的に問題を解決していく力を育成する。
担当 教務部	
豊かな心	①たてわり活動を推進することで、自他の違いを認める心や異学年同士のつながりを育む。また、6年生の一人一人が活躍できる場をもつ。②幼保小交流や地域とふれあう体験活動を大切に、地域の一員としての自覚ある子どもを育成する。③道徳の時間を通して、自分らしさを認めたり、他者への思いやりを育てる。
担当 たてわり・人権・道徳	
健やかな体	①全教育活動の中で運動に親しむ資質能力と健康を適正に管理する能力を育てる。②スポーツリズムトレーニングを通して、けがを予防するための筋力や体力の向上を目指す。③一校一実践運動に「縄跳び」を取り上げ、縄跳び集会とそれに向けた定期的に練習を行い、体力向上や運動に親しむ資質能力の向上を目指す。
担当 体育部	
地域連携	①地域コーディネーター、中学ブロック、地域の保育園・公共施設等と連携し、地域を生かした学習や行事に積極的に取り組み、地域の一員であることを自覚し、地域を愛する子どもを育てる。②PTA・おやじの会・川北っ子支援隊・各自治会等と連絡を密にし、子どもを見守り、子どもが積極的に地域行事に参加できるように努める。
担当 教務部	
児童・生徒指導	①毎月、各学年に児童の記録をまとめ、それをもとにして学年主任会や児童指導委員会で児童の状況を把握し、全教職員が共通認識のもと児童指導ができるようにする。②年度当初、夏季、冬季と児童指導の研修を充実することによって児童が安心して学校生活を過ごせるようにする。
担当 児童指導委員会	
特別支援教育	①校内の特別支援コーディネーターのそれぞれの役割を明確にし、特別な支援を要する児童についての把握、共通理解を図るようにする。②関係機関と積極的に連携することによって、児童と保護者の支援をきめ細やかなものにする。③個別支援級の児童と一般級の児童のつながりを大切にする。
担当 特別支援コーディネーター	
安全管理	①様々な状況を想定した避難訓練の実施やそれに伴う環境の整備を行う。②職員研修を充実させ、安全面の意識を高めるとともに状況に応じた指示系統や初動体制を確立させる。③登下校の安全に、保護者・地域の協力を得て取り組む。④登下校の安全に、児童自身が主体的に判断し安全行動がとれるよう口頭より指導する。
担当 安全部	
自分づくり教育 (キャリア教育)	①「横浜の時間」を中心に、体験的に学ぶ機会を積極的に設け、他者との関わりの中で一人ひとりの自己有用感を高めるようにする。②自分づくりパスポートを記録することで、自分の思いや考えを明らかにし、振り返り等として、自分の理想(自己実現)に近づけるようにする。
担当 特活部・総合的な学習の時間	
いじめへの対応	①月1回定期的にいじめ防止対策委員会を実施し、認知された案件の経過確認を行う共に、気になる児童を共有しチームで対応することで未然防止に努める。②いじめ防止研修を充実させることによって実施し、全教職員のいじめに対する感覚を高め年2回の児童アンケートやYPにより些細な変化を見逃さない体制作りをする。
担当 児童指導委員会・いじめ防止対策委員会	
人材育成・組織運営 (働き方改革)	①メンターチームを組織し、月1回活動を行う。②月1回学年主任会を行い、職員の共通理解を図るとともに全体を見通して学校運営に参画していく場を設定する。③研究や児童指導等に学年で取り組み、組織としての力を高め、個々の力量形成を図る。④グループウェア等を活用し、情報の共有化・効率化を図る。⑤会議を効率的に時間短縮できるようにする。
担当 教務部	